

目指すまちの将来像

みんなが 安心、安全に暮らせる 坂のまち 今熊野

防災まちづくりの基本方針

- ひと ▶ 「あいさつ以上、親戚未満」
顔見知りで支え合える関係づくり
- いえ ▶ 災害に備えた「いえ」づくり
- みち ▶ 安全に避難できる「みち」づくり
- まち ▶ 共に助け合える「まち」づくり

今熊野学区では、目指すまちの将来像の実現へ向け、上記の基本方針に基づき活動を進めます。一人ひとりまたは町単位では、主に「管理」や「改善・整備」を、町単位または学区単位では、主にまちを守るための「点検」「協力」「発信」等を進めます。

4-1-1 坂のまち 今熊野の方針「ひと」 「あいさつ以上、親戚未満」 顔見知りで支え合える関係づくり

素早く助け合える体制

一人ひとり、町、学区が、状況に合わせて迅速に助け合うには？

それぞれの役割を理解し連携します

- 個人** 個人、町、学区の役割を理解し「**家族内での災害時の対応の検討**」、「**地域行事や防災関連活動への参加**」を行い、いざという時に迅速に助け合える体制づくりに協力します。
- 地域** 町単位で町の実情を把握し、「**災害時の安否確認方法・避難ルールづくり**」「**近隣の町内会との連携**」「**情報共有の体制づくり**」に取り組みます。
- 地域** 学区単位で「**自主防災会役員と防災部長、自主防災会と自治連合会の連携**」を進めます。また、「**商店街や近隣学区など学区内外の連携（災害時の連携協定、合同防災訓練など）**」を進め、まちの防災力を高めるネットワークづくりを進めていきます。

世代を超えて交流できる関係

いろんな人、世代が交流することでできる、安心・安全な取組とは？

日頃からの交流や協力を進めます

- 個人** 災害時にも住民同士が助け合えるよう、「**日頃の声掛けやコミュニケーション**」「**隣近所の住民との交流や見守り**」などを行い、顔の見える関係をつくります。
- 地域** 地域住民の要望に応じて、「**地域行事の復活（地蔵盆など）**」や「**防災に関連した交流イベント（親子連れ対象の防災キャンプ、坂のまちマラソンなど）**」などを行い、世代を超えた日常的な交流を、防災の観点からも進めていきます。
- 地域** 自治活動とは別に、“**単発的になら協力できる**”という住民を定期的に募り、「**防災まちづくりに関する活動の企画・運営**」を通じて、住民との自由度のある交流を進めます。

お互いに知恵と力を合わせる意識

安心で安全なまちをつくっていくために、自分ができることは？

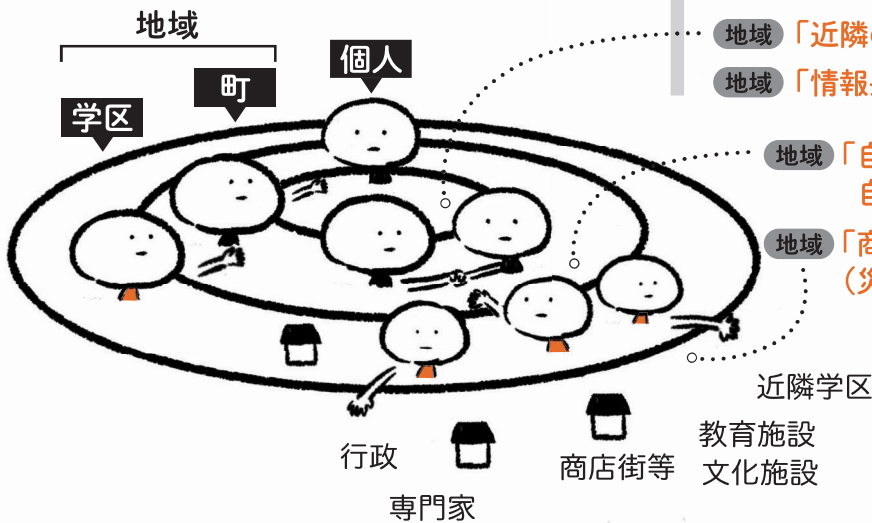
防災やまちについて学びます

- 地域** 町単位・学区単位で「**防災の定期活動（消火実験会、防災まちあるきなど）**」を行い、住民一人ひとりが自分の町の状況を把握し、防災意識を育む取組を進めていきます。
- 地域** 学区単位で「**防災の講習会（防災リーダー研修会、防災まちづくり講演会など）**」を行い、防災部長をはじめ住民も防災知識や自分にできることを学ぶ機会をつくっていきます。
- 地域** 「**対面での伝達（会議や地域行事）**」「**非接触の伝達（回覧板）**」「**オンライン受発信（ホームページ、SNS）**」などを活用して、防災を通じた幅広い世代への情報交流を進めます。

素早く助け合える体制へ

日頃からの交流や協力を進めます

- 個人 「日頃の声掛けやコミュニケーション」
- 個人 「隣近所の住民との交流や見守り」



それぞれの役割を理解し連携します

- 個人 「家族内での災害時の対応の検討」
- 個人 「地域行事や防災関連活動への参加」
- 地域 「災害時の安否確認方法・避難ルールづくり」
- 地域 「近隣の町内会との連携」
- 地域 「情報共有の体制づくり」
- 地域 「自主防災会役員と防災部長、自主防災会と自治連合会の連携」
- 地域 「商店街や近隣学区など学区内外の連携（災害時の連携協定、合同防災訓練など）」

- 地域 「地域行事の復活（地蔵盆など）」
- 地域 「防災に関連した交流イベント（親子連れ対象の防災キャンプ、坂のまちマラソンなど）」
- 地域 「防災まちづくりに関する活動の企画・運営」

防災やまちについて学びます

- 地域 「防災の定期活動（消火実験会、防災まちあるきなど）」
- 地域 「防災の講習会（防災リーダー研修会、防災まちづくり講演会など）」
- 地域 「対面での伝達（会議や地域行事）」
- 「非接触の伝達（回覧板）」
- 「オンライン受発信（ホームページ、SNS）」

世代を超えて交流できる関係へ

今熊野学区には、いろんな方々が住んでいます。住民同士の交流や連携はもちろんのこと、高齢者や福祉施設に通う方々、小さなお子さんを抱えるご家族も、災害時に安全に避難できる体制を、地域全体でつくっていったら安心だなと思います。



進藤さん / 月輪町中部

お互いに知恵と力を合わせる意識へ

4-1-2 坂のまち 今熊野の方針「いえ」 災害に備えた「いえ」づくり

お住まいの家

安全で災害に強い家が増えていくためには？

日頃から管理します

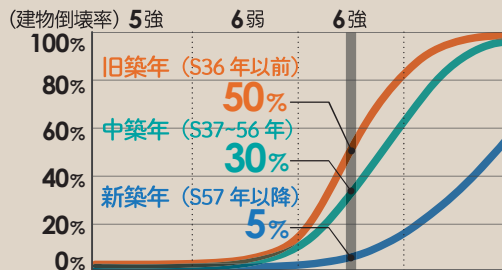
- 個人** 日頃から「建物の維持管理・修繕（建物自体、屋根、塀・植栽など）」を行うとともに、「建物の中の安全対策（家具の転倒防止器具の設置、感震ブレーカーの設置、住宅用火災警報器の設置など）」や「建物の周囲の安全対策（燃えやすいものの撤去、消火器・消火バケツの常備など）」など、身の回りの安全対策を進めます。

地域の安全につながる整備をします

- 個人** 災害時に自身の命を守り、安全に避難できるよう、「建物の耐震診断」「建物の耐震化・防火対策」を行い、災害に備えた、倒れにくく、燃えにくい家づくりを進めます。

建物の耐震基準は、時代を追って厳しくなり、新しい建物ほど厳しい基準をクリアしています。震度 6 強でも、新耐震基準をクリアした建物は倒壊率 5% であるのに対し、昭和 36 年以前の建物は倒壊率 50% という結果もあり、耐震基準によって約 10 倍倒壊率に影響があることがわかります。

※「平成 22 年版防災白書 木造建築物の全壊率テーブル」をもとに作成



空き家 / 住んでいない家

常時は住んでいない家
居住以外の目的（物置や倉庫等）で利用の建物

まちにとって、少しでも安全で災害時に危険がないようにしていくためには？

日頃から管理します

- 個人** 日頃から定期的に「建物の管理（建物自体、屋根、塀・植栽など）」や、傷んだ場合には「建物の修繕」を速やかに行い、近隣住民が安心して暮らせる環境を維持します。
- 地域** 必要に応じて、地域として「空き家状況の把握・見守り」や、所有者に対して「建物の管理や利活用に関する働きかけ」も行い、地域全体で住環境の維持に努めます。

地域の安全につながる整備をします

- 個人** 空き家 / 住んでいない家については、「建物の利活用や整備（建物の除却等）の検討」を行うなど、学区内の建物や空間が安全に活用される改善を進めます。
- 個人** 老朽化した空き家については、地域や行政などに相談しながら「速やかに安全にする整備（建物の除却等）」を進めます。
- 地域** 町単位・学区単位で、「空き家化した場合の利活用のルールづくり」などを行い、空き家の予防・空き家を減らす取組を進めます。

- 地域** 地域として、「建物の管理や利活用について相談できる体制づくり」「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」を進め、整備改善をサポートする環境を整えます。

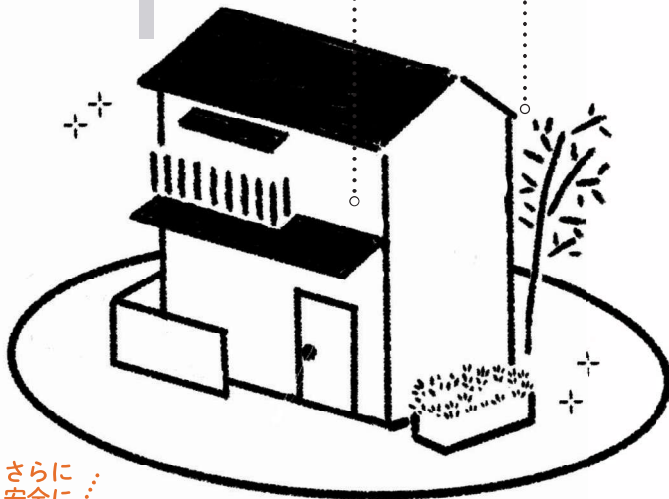
お住まいの家

日頃から管理します

個人「建物の維持管理・修繕」

個人「建物の中の安全対策」

個人「建物の周囲の安全対策」



さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

個人「建物の耐震診断」

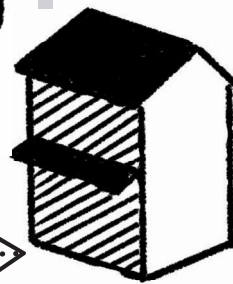
個人「建物の耐震化・防火改修」

住んでいない家

日頃から管理します

個人「建物の管理」

個人「建物の修繕」



空き家

日頃から管理します

個人「建物の管理」

個人「建物の修繕」



さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

個人「建物の利活用や整備の検討」

個人「速やかに安全にする整備」

日頃から管理します

地域「空き家状況の把握・見守り」

地域「建物の管理や利活用に関する働きかけ」

さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

地域「空き家化した場合の利活用のルールづくり」

「倒れそうな家が近くにあると、災害時被害が出ないか心配」「居住者や使用実態がわからず不安」などの声をよく聞きます。今熊野学区では NPO 京都泉山とも連携して空き家活用を進め、住民の皆さんが安心して暮らせるまちにしていきます。



石井さん / 南日吉町西南部

地域「建物の管理や利活用について相談できる体制づくり」

- ・ 支援制度の紹介
- ・ 活用事例の紹介・提案
- ・ 行政や専門家の紹介・調整

地域「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」

4-1-3 坂のまち 今熊野の方針「みち」

安全に避難できる「みち」づくり

みんなの道（車が通れるみち）

一人でも多く安全に避難できる、救助ができる道を増やしていくためには？

日頃から管理します

- 個人** 日頃から「道の状況の把握」「学区内の道の維持管理・修繕（沿道の建物、屋根、塀、樹木、駐輪駐車など）」を行い、地域住民が安心して利用できる道づくりを進めます。

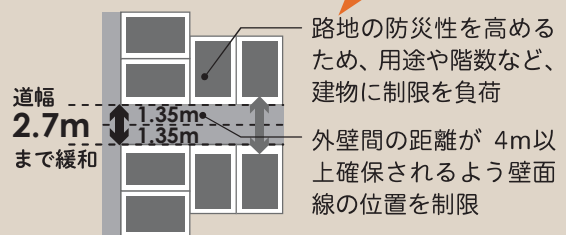
地域の安全につながる整備をします

- 地域** 災害時の避難ルートに利用される道については、沿道の建物や付属物の倒壊等により地域住民の避難の妨げとならないよう、「沿道建物の耐震診断」「沿道建物の耐震化・防火対策」を学区単位で促し、地域住民が安全に避難できる道づくりを進めます。
- 地域** 道幅が4m未満の道については、「隅切りの整備」を学区単位で促すとともに、「道の拡幅」「建替え時に建物の後退（セットバック）を徹底するルールづくり」などを行い、現在の住環境を維持しながらも、災害時に必要な救助活動ができる道路整備を進めます。

三項道路指定制度

建替えが可能になる道路指定制度

法の規定により、建替えの際には、原則道路の中心線から2mの敷地後退をする必要があります。しかし元々の敷地が狭いと、十分な広さの居住面積を確保することが難しくなります。このため道路指定制度では、沿道全体の建物の安全性を高めることを条件に、敷地後退距離を1.35mまで緩和することで、狭小敷地での建替えを促しています。



あなたのお住まいの路地（人が通れるみち）

災害時にも安全に路地から避難できるようにするためには？

日頃から管理します

- 個人** 日頃から「路地の状況の把握」「路地の維持管理・修繕（路地内の建物、屋根、塀、樹木、駐輪駐車など）」を行い、路地内の住民同士が安心して暮らせる環境を維持します。
- 地域** 路地単位・町単位で、「住民同士で協力して路地を管理するルールづくり」などを行い、安心で安全な路地のある暮らしを守る取組を進めます。

地域の安全につながる整備をします

- 個人** 災害に備え「危険ブロック塀の改善」「路地始端部（入口部分）の建物の耐震化・防火対策」「袋路（行き止まり路地）の二方向避難経路の確保」など、災害時に自らの命を守り、安全に避難できる整備を進めます。
- 地域** 地域として、「路地単位・町単位で話し合う場づくり」「道や路地の整備について相談できる体制づくり」「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」などを進め、整備をサポートする環境を整えます。

みんなの道

日頃から管理します

- 個人 「道の状況の把握」
- 個人 「学区内の道の維持管理・修繕」

さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

- 地域 「沿道建物の耐震診断」の促進
- 地域 「沿道建物の耐震化・防火改修」の促進
- 地域 「隅切りの整備」の促進
- 地域 「道の拡幅」
- 地域 「建て替え時には建物の後退を徹底するルールづくり」

あなたのお住まいの路地

日頃から管理します

- 個人 「路地の状況の把握」
- 個人 「路地の維持管理・修繕」
- 地域 「住民同士で協力し路地を管理するルールづくり」

さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

- 個人 「危険ブロック塀の改善」
- 個人 「路地始端部（入口部分）の建物の耐震化・防火対策」
- 個人 「袋路（行き止まり路地）の二方向避難経路の確保」

さらに安全に

地域の安全につながる整備をします

- 地域 「路地単位・町単位で話し合いができる場づくり」

- 地域 「道や路地の整備について相談できる体制づくり」

- 支援制度の紹介
- 活用事例の紹介・提案
- 行政や専門家の紹介・調整

- 地域 「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」

「歩きにくい」「車両通行が円滑でない」などの課題は普段から感じています。なので、できるだけ緩やかな坂を選んで移動するなどの工夫をしています。防災対策もしつつ、足腰を鍛えたりしながら、坂のまち今熊野と上手につきあっていきたいです。



生賀さん / 月輪町中野

4-1-4 坂のまち 今熊野の方針「まち」共に助け合える「まち」づくり

災害時もみんなで集まり、助け合える場

集まって避難したり、救助活動ができる場を少しでも増やすには？

日頃から管理します

個人 日頃から「自分の町や近隣の町の状況の把握」「地域の集合場所の維持管理・修繕（塀、樹木、駐輪駐車など）」を行い、地域住民が安全に過ごせる地域づくりを進めます。

地域の安全につながる整備をします

地域 地域内で空き家や空き地がある場合は、所有者の意向を聞きながら相談の上で「防災ひろばの整備」などを行い、地域独自の待避場所づくりを進めます。

地域同士の協力を広げます

地域 近隣の町からの避難も想定して、町内で協力してくれる既存の空き地や耐震性の高い建物を事前に把握し、「災害時に待避場所として利用できる協カルールづくり」などを行い、町同士で助け合える環境づくりを進めます。

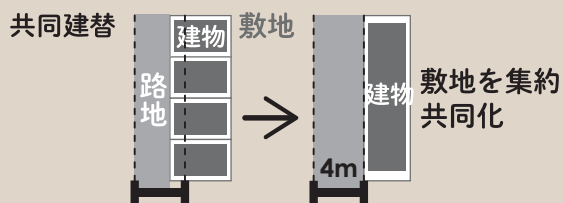
あなたのお住まいの家と路地

家と路地を一体的に整備し、ゆとりのある安全な場をつくるには？

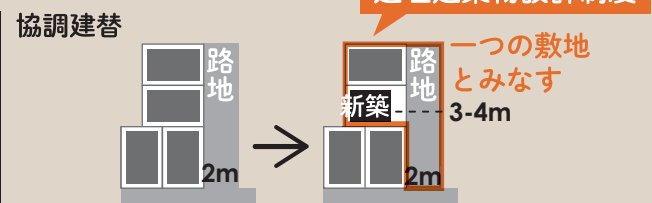
地域の安全につながる整備をします

地域 木造建物や路地が密集するエリアでは、路地単位・町単位で「空き地を活用した防災ひろばの整備」などを行い、路地内に火災の延焼を防止し一時待避場所となりうる空間づくりを進めます。

地域 路地の空間的な良さを残しながら、家と路地を一体的に整備する「敷地の集約化や建物の共同化」などを行い、安全で建替えもできる路地への再生を進めます。



一軒ごとでは建替えが困難な敷地でも、複数の敷地を集約することで、集合住宅等に建替えることができます。



一軒ごとでは条件を満たせない敷地でも、路地に面した複数の敷地を一つの敷地とみなして、敷地全体で建築規制を満たすことで、個別に建替えができるようになります。

地域 地域住民が災害時に円滑に避難できるよう、学区単位で「地域状況の把握や避難の際に役立つ案内ツールの作成」などを行い、地域の防災力を高める取組を進めていきます。

地域 地域として、「路地単位・町単位で話し合う場づくり」「防災ひろばや家と路地一体の整備について相談できる体制づくり」「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」などを進め、整備をサポートする環境を整えます。

災害時もみんなで集まり、助け合える場

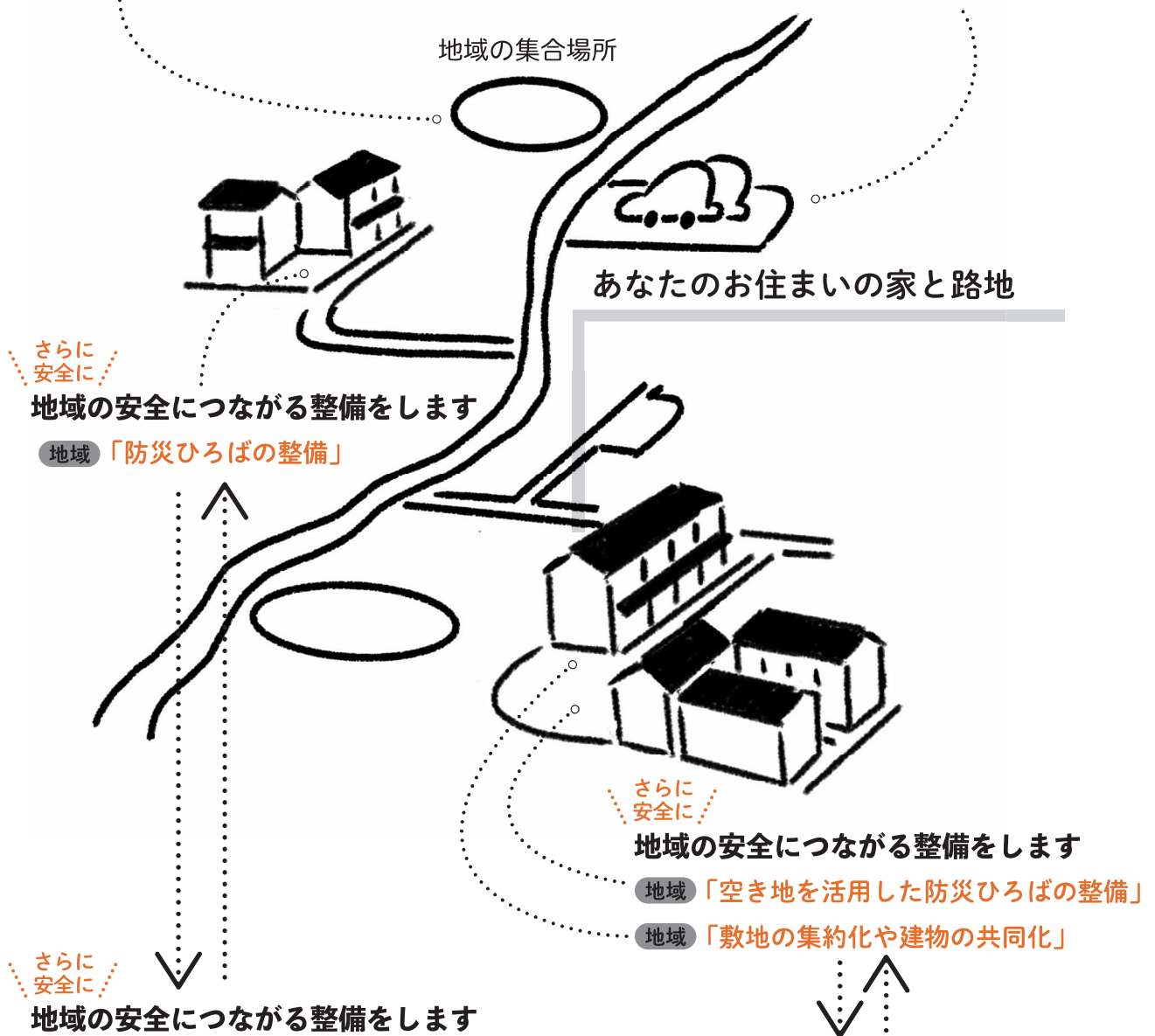
日頃から管理します

個人「自分の町や近隣の町の状態の把握」

個人「地域の集合場所の維持管理・修繕」

さらに
安全に

地域同士の協力を広げます

地域「災害時に待避場所として
利用できる協カールールづくり」

地域「路地単位・町単位で話し合いができる場づくり」

地域「防災ひろばや家と路地一体の整備について相談できる体制づくり」

- ・支援制度の紹介
- ・活用事例の紹介・提案
- ・行政や専門家の紹介・調整

地域「学区内外の専門家等とのネットワークづくり」

学区が広く、コロナ禍のような状況を考えると、大勢で集まって避難することができない可能性もあると感じます。なので、ご近所さんや近隣の町と、小規模でも助け合って避難できる場所も、まちの中に作っていけると安心だと思います。



地域「地域状況の把握や避難の際に役立つ案内ツールの作成」